

# 金出地ダム 被害状況

平成 16 年台風 21 号による被害状況など



① 国光第 1 橋から下流を望む



② 高谷橋付近  
金出地ダム - 6

# 金出地ダム 被害状況

平成 16 年台風 21 号による被害状況など



③ 高谷橋から鞍居川下流を望む



④ 鞍居川下流 上郡町内中心部住宅浸水状況

# 金出地ダム 被害状況

平成16年台風21号による被害状況など



⑤ 鞍居川下流 上郡町中心部 水没状況



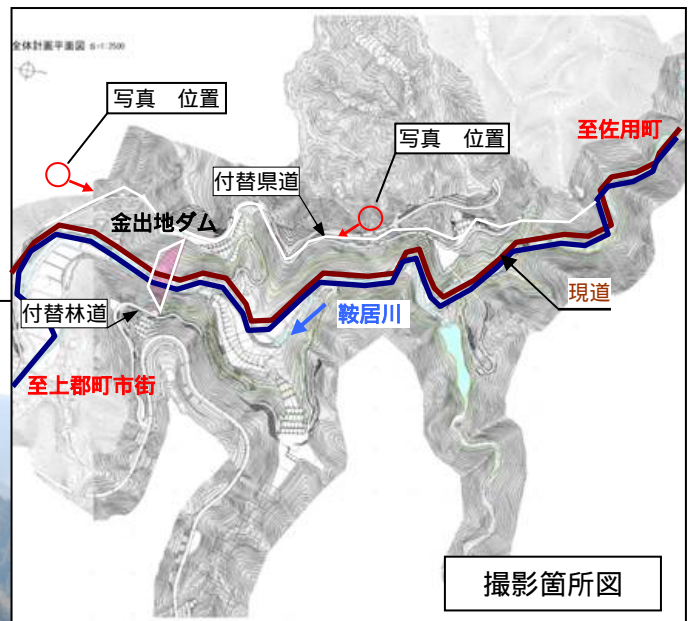
⑥ 鞍居川下流 上郡町内中心部住宅床上浸水状況

# 金出地ダム 被害状況

平成 16 年台風 21 号による被害状況など



# 金出地ダム 工事实施状況



## 金出地ダム建設事業スケジュール

実施内容	H2~H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
測量・調査	≡				← 計画見直し →											
環境調査	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡
用地補償	≡	≡	≡	≡												
補償工事		≡	≡	≡	≡			≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡
ダム本体工事											≡	≡	≡	≡	≡	≡
管理設備工事												≡	≡	≡	≡	≡

前回計画	≡
見直し計画	≡

### 金出地ダム建設事業の費用便益比

#### (1) 費用便益比の考え方

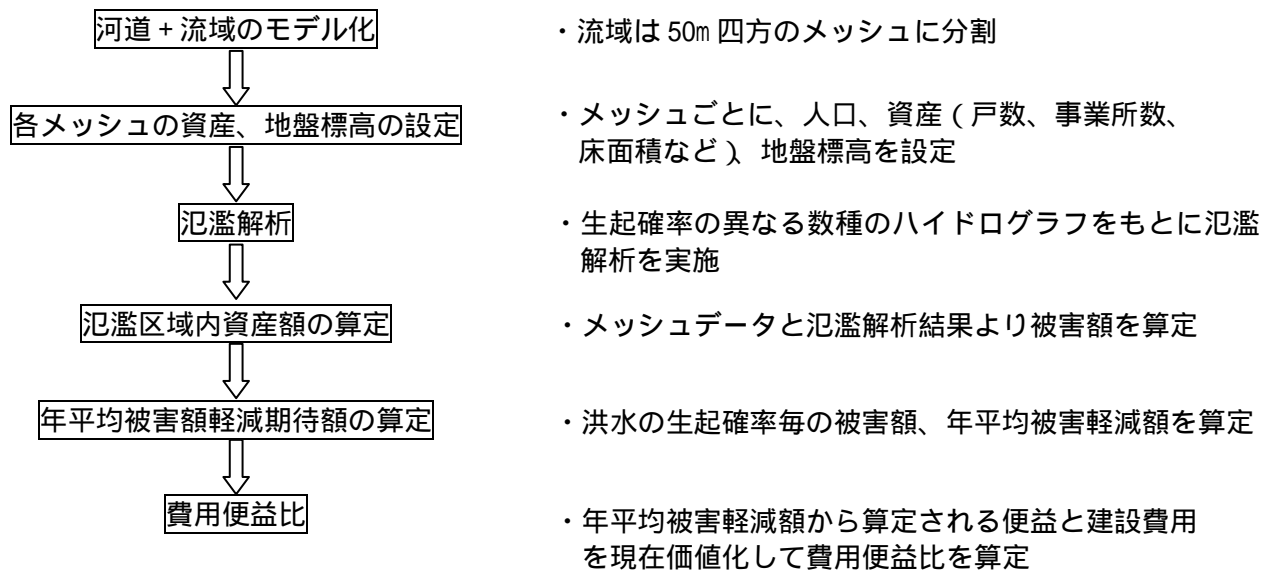
- 1) 便 益 = 治水事業を実施することによる被害軽減期待額を現在価値化 + 不特定便益 + 残存価値  
 被害額 = 一般資産被害 (家屋、家庭用品、事業所償却資産、農漁家償却資産等)  
 + 農産物被害 + 公共土木施設等被害 + 営業停止被害 + 応急対策費用

- 2) 費 用 = 「建設費 + 維持管理費」を現在価値化

#### (2) 算定に用いた資料

治水経済調査マニュアル (案) 国土交通省河川局 平成 17 年 4 月 (デフレータ等 平成 22 年 2 月)

#### (3) 便益 (B) の算出方法



#### (4) 費用便益 (B/C)

便益 (B)		費用 (C)			B/C
総便益 (百万円)	代表的な効果	総費用 (百万円)	事業費 (百万円)	維持管理費 (百万円)	
41,046.9	60 年確率の洪水に対し ・ 浸水戸数を 97 戸軽減 ・ 浸水面積を 64ha 軽減	21,545.1	21,122.8	422.3	1.90

## 金出地ダム検討会議の検討結果の概要

### 1. 対応方針(案)

金出地ダム事業を現行計画どおり継続する。

#### 【理由】

「現行計画（金出地ダム＋河道改修）」と代替案について様々な評価軸による評価を踏まえて総合的に評価した結果、環境への影響は比較的大きいが、比較的低コストで、地域の理解も得られていることから実現性が高く、早期に治水・流水の正常な機能の維持の効果が得られる「現行計画（金出地ダム＋河道改修）」が最も有効な対策である。

#### 【事業の継続にあたっての留意事項】

事業期間が長期化していることから、治水、流水の正常な機能の維持両面からもダムを早期に完成をさせる。さらに、鞍居川の改修を進め、千種川水系河川整備計画（案）で定める目標の早期達成を目指す。改修にあたっては、瀬切れの解消、動植物の適正な生息の場の確保に努める。

事業中及び供用後は、地元等と知見を共有するとともに、協働・連携体制のもと、貴重植物の保全・モニタリング等を継続実施し、周辺環境への影響の軽減に努める。

ダムや河道改修などの河川対策、山林や農地の保全などの流域対策、水位等の情報提供などの減災対策を3つの柱とする総合的な治水対策に取り組む。

### 2. 金出地ダムの総合的な評価の内容

総合的な評価は、目的別代替案の組み合わせ及びその可否を検討した後、評価軸毎に現行計画と代替案（組み合わせ）を評価することにより行った。その結果は以下のとおりである。

「現行計画（金出地ダム＋河道改修）」は、環境への影響は比較的大きいが、実現性が高く、早期に治水・利水効果が得られ、比較的低コストであることから、「現行計画」が最も有効な対策である。

#### 【評価軸毎の評価】

##### 目標・安全度

早期に治水・利水安全度を確保できる現行計画が最も有利である。

##### コスト

現行計画と河道改修＋水系間導水が比較的低コストである。

##### 実現性

現行計画は、ダムに係る用地買収と関係者との調整が概ね完了しているため、最も実現性が高い。

##### 地域社会への影響

現行計画は、ダムに係る用地買収が完了しており、周辺地域の理解も得ていることから、地域社会への影響が最も小さい。

##### 環境への影響

現行計画は、ダム貯水池等の自然環境や生物多様性が永続的に失われ、下流河川も含めた水環境や土砂環境も変化するため、他案と比べ環境への影響が大きく、実施にあたっては適切な環境対策やダム運用による影響軽減を図る必要がある。

表-1 目的別代替案の組み合わせ

	治水	流水の正常な機能の維持(利水)	組合せ可否	コスト <sup>1</sup>
対策案	現行計画 (金出地ダム＋河道改修) 事業期間:21年間		X	(合計) 136.2億円 (治水) 92.9億円 (利水) 43.3億円
	河道改修 事業期間:30年間	水系間導水 事業期間:5年間	可	(合計) 157.0億円 (治水) 95.7億円 (利水) 61.3億円
		堰堤再開発＋河道外貯留施設 事業期間:30年間	可	(合計) 236.2億円 (治水) 95.7億円 (利水) 140.5億円
	放水路＋河道改修 事業期間:21年間	水系間導水 事業期間:5年間	可	(合計) 189.1億円 (治水) 127.8億円 (利水) 61.3億円
		堰堤再開発＋河道外貯留施設 事業期間:30年間	可	(合計) 268.3億円 (治水) 127.8億円 (利水) 140.5億円

事業期間は、現行予算で想定される金額等からの推定年数である。

<sup>1</sup> コストには、30年間分の維持管理費及びダム中止費用を含む。